

漢字の音訓

漢字には、音^{おん}と訓^{くん}とあるのが普通です。音とは、漢字が日本に取り入れられた時の中国読みのことであり、訓とは、その漢字にあたるわが国の言葉のことです。

たとえば、「花」という漢字は、中国では「カ」と読むので、「カ」が音です。「造花^{ぞうか}」「花瓶^{かびん}」という使い方がこれです。ところが、この字は、わが国では「はな」という言葉にあたりますので、「花」を「はな」と読む読み方が生まれました。これが訓です。「花見^{はなみ}」「草花^{くさばな}」という使い方がこれです。

中国は、広さから言えばヨーロッパ全体に匹敵する広さがありますから、同じ漢字でも、その地域によっては随分違った発音をします。また長い年代にわたって日本に入ってきて来ましたので、一つの漢字にいくつもの音がある漢字があります。また、漢字によっては、わが国のいくつかの言葉にあたるものもありますので、一つの漢字でいくつもの訓を持った漢字もあります。

たとえば、「下」という漢字は、「地下(チカ)」「下水(ゲスイ)」「下町(したまち)」「川下(かわしも)」「下^{くだ}る」「下^さげる」「下(もと)」など二つの

音と五つの訓とを持っています。

「チカ」という音は、**漢音**と言います。これは、わが国が、中国と正式に国交を結ぶようになって、唐の国都長安の標準的な発音を取り入れたものです。漢字の標準音という意味で「漢音」と呼んだものです。聖徳太子の時代から、平安朝初期にかけてでき上がりました。

「下水^{ゲスイ}」という音は、**呉音**と言います。中国と正式な国交を結ぶ以前、仏教などの経典と共に取り入れた音で、仏教に関係ある言葉やその他特別の使い方が多く、漢音に比べると、数は少ししかありません。揚子江の下流地方を「呉」と呼びますが、この地方の発音なので、「呉音」という名称があります。

ずっと後になって、中国の「明」「清」時代の発音で読まれるものも、極めて僅かですがあります。これを**唐音**と呼びます。これは、中国人のことを、「唐人」と呼んでいたためかと思われます。「実行^{ジッコウ}」「行進^{コウシン}」は漢音、「行列^{ギョウレツ}」「奉行^{ブギョウ}」は呉音、「行宮^{アングウ}」「行燈^{アンドン}」は唐音です。

これは、同じ album が、英語ではアルバム、独逸語ではアルBUM、仏語ではアルボム、と発音されるようなものです。それより広大な中国のことですから、発音が複雑になるのは止むを得ないことです。